す。いつも、いつも、一生懸命生きてきた、おばちゃんのこと、みんなは、よく知っています。

おばちゃんの思い出を、ずっと、胸にだいて、おばちゃんの頑張った姿をお手本に、私も頑張ります。

もうすぐ、おじさんや雄二兄ちゃんと会えるでしょうか。

これからは、遠い空の上で、家族や親戚のみんなのこと、見守っていてくださいね。

安らかに、お眠りください。　　さようなら。

滋賀県に嫁いだ姪　　小　牧　　一　美

光代おばちゃん

突然の訃報に、驚き、哀しみでいっぱいです。
滋賀県に嫁いで、もう二十四年。ご無沙汰ばかりで、ごめんなさい。お見舞いにも、そして、今日も、駆けつけることができないまま、永遠のお別れ。
本当に、ごめんなさい。

九十年のおばちゃんの人生。どんな人生でしたか。
幸せに生きさせてもらっている私には、想像できない苦労がいっぱいあったのではないでしょうか。

そもそも、その苦労の始まりは、あの戦争。
家族のみんなが頼りにし、将来を期待していたただ一人の兄、ひろし兄さん。優秀で、優しくて、ハンサムで・・・。家族みんなの希望の星だった・・・。
そのひろし兄さんの、出征と、そして戦死は、秋山家の生活を一変させました。女ばかりが残された家族は、それから、苦労の連続だったそうですね。
なれない農家の仕事は、自然が相手のつらい仕事。東京出身のご主人にも、大変な苦労だったでしょう。
でも、少しづつお金をためて、家も建て、子ども三人に恵まれ、子育て中は、楽しく希望に満ちた毎日だった。

やがて、体の弱かったご主人との別れ。
そして、頼りにしていた長男、雄二さんとの別れ・・・。どんなに、つらかったことでしょう。そして、おばちゃんご自身の体の自由も利かなくなり・・・。
晩年は、しんどい日々が続いたかもしれませんね。

でも、おばちゃん。
おばちゃんを知っている、私たちはみんな、おばちゃんのやさしさや、おばちゃんが働き者だったこと、ずっと頑張ってこられたことを、知っていま